



東京奄美会とともに

(総会・世界自然遺産登録記念式典におけるご挨拶)

東京奄美会 前会長 大江 修造

総会・世界自然遺産登録記念式典開催のご案内を差し上げましたところ、ご多忙な行政の各位、国会議員、遠く故郷奄美から首長各位、関係者各位、並びに本会会員の皆様が、コロナ禍の折にもかかわらず、多数ご参集いただきましたこと、会員を代表しまして、心から厚く御礼申し上げます。

奄美が世界自然遺産に登録されたことは、奄美の人々、皆が、島を大事にしてきましたから、世界中で、絶滅していく自然が多い中で、どこにもいないルリカケスやクロウサギなどをはじめとする自然が元気に生き残ったのです。ご来賓をはじめとする多くの方々が、このことを認められて、支えていただいた賜物であります。今や、奄美の自然とそれを大切に持続させてきた、奄美人の行動は世界に認められたのです。大いなる誇りをもって、これからも大事にして、世界に誇る奄美の自然を残していこうではありませんか。有識者各位のご協力を賜り、講演会・トークセッションにて貴重なご意見などを伺えますこと、深く感謝申し上げます。

振り返りますと、渋谷のおはら祭りの際、案内の最初の発声で、新しく役員やゆかりの歌手と編成した「東京奄美会のパレード」が声高々と、渋谷の駅前大通りに響きわたり、紹介されました。文化講演会ではノーベル賞受賞の北里大学特別榮譽教授・大村智先生のご講演「一期一会が人生を開く」を多くの会員が感銘をもって聞き入っておられました。大村先生が、いかにして、ノーベル賞受賞に至ったかをわかりやすく説いていただきましたことは、大変有難いことでした。秋に開催した東十条小学校の恒例の運動会には、会場に入りきれない会員やご来賓が参加され、童心に帰りました。知事選出馬前の塩田様が懸命に競技に参加されておられたのも印象的でした。

会長就任1年後の12月には、年末の公務ご多忙の折にもかかわらず、各市町村の首長様をはじめとして多くの方々のご協力により、11日間の故郷への役員代表による表敬訪問が実現いたしました。全市町村におきまして、首長ご出席のもとで施政報告を伺い、併せて、各市町村に統一したテーマにつき、短時間ながらきわめて有益な意見交換ができ、町によっては、Iターンなどにつき具体的情報交換もでき、絆を深めることができました。かつ、熱烈歓迎の懇親会では懐かしい踊りや唄でのおもてなしをいただき、この場をお借りして、改めまして、御礼申し上げます。

しかしながら、未曾有のコロナ禍に襲われ、先の太平洋戦争中にもなかったという、全国一斉の緊急事態宣言が発せられ、街中から人影が消えました。高齢者は感染の恐れの中での生活を余儀なくされたことはご存知の通りでした。本会におきましても活動中止を提案しましたところ多くの役員の賛同を経て、最近まで活動中止をせざるを得ませんでした。同時に、奄美群島におきましても感染者が出現し、早速、義援金の公募を提案し、会員の浄財をお届けいたしました。この場をお借りして、制約の多かった時期にもかかわらず、ご浄財のご提供をいただきました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後についてですが、奄美奨学会は奄美の有為な青年に奨学金の貸与ということで、奄美に貢献しています。会則第5条2項にありますように本会は奄美奨学会へ協力をするようになっており、これまでも東京奄美ゴルフ会から、チャリティ募金が行われていまして、募金者のご協力に感謝いたしております。今後は、募金者や寄付者の表彰などにより、なお一層協力を強化されますことを、会員各位がご検討されますことを、私の会長としての置き土産としてお認めいただければ、幸甚でございます。

最後に夢を語らしていただければ、諸先輩並びに会員のご希望でもあります、「奄美会館」の建設であります。そこにいけば、いつでも島の人に会え、島の人々の講演や島唄を聞き、若い人に島のことを伝えられ、一期一会を実現できる日が来ることです。

結びに、東京奄美会を支えて頂きました、来賓の皆様、多くの先輩、会員、役員、執行部の各位に万感の思いを込めてお礼を申し上げ、新会長に熱い期待をしながら、会長の任期を終えさせていただきます。

ありがたさまりょうた！！！！